

2005年

9

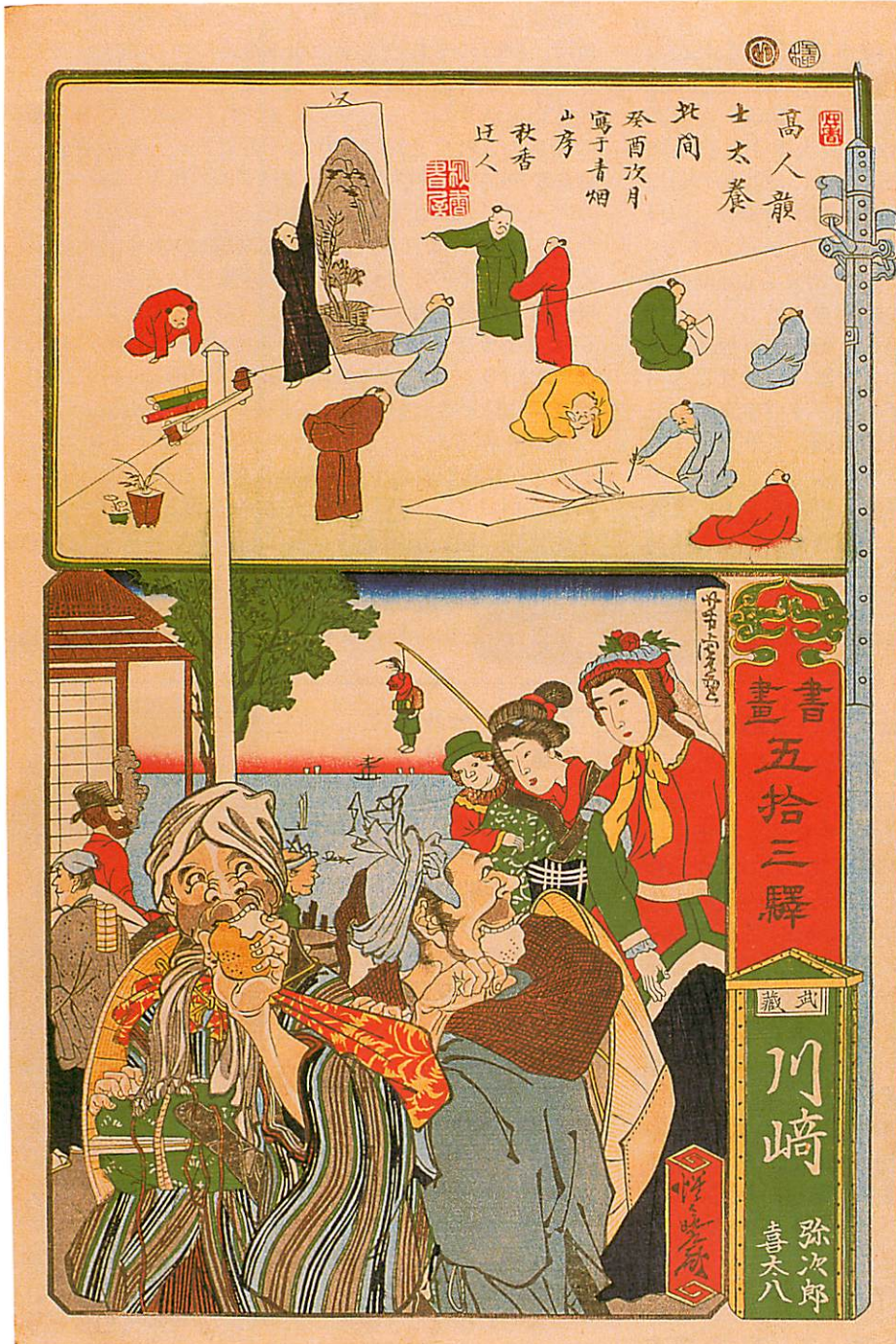
月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 143

もくじ

- 2 アカデミーの窓
- 3 まなびの広場
- 4 特集 インタビュー 北條 秀衛・教育長
- 6 芸術・文化ロード
- 7 まち・ひと・多面体／くらし百景 歌壇
- 8 イベントパーク



暁斎・芳虎画「書画五十三駅 川崎」

発行・(財)川崎市生涯学習財団

〈ホームページ〉<http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085

ステージ・アップ直通 TEL 044 (733) 5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp

アカデミーの窓

かわさき市民アカデミーの情報

宮ヶ瀬ダム歴史と役割を学習

かわさき市民アカデミー「友の会」野外研修報告

「社会福祉」コース 赤木 京子

7月20日水曜日、参加者80人は2台のバスに分乗し、たまプラーザ駅を8時過ぎに出発。10時には県西部の宮ヶ瀬のダムサイト地区の愛川公園へ到着。途中、「不法投棄パトロール」と書かれた朱旗を幾本も目にする。



降車後15分もかからず宮ヶ瀬ダムが目前に迫る。堤高156m、堤頂長400mの大きさに息をのむ。傍らには身長1.5mの倍はあろう利水放流管(口径3m板厚2cm)があり、11時に始まる6分間の観光放流を心待ちにさせている。橋の上は放流を待つ人で数珠つなぎになっている。約30分の待ち時間の間に、ダムの上へ行ってみる人、橋の上で講師へ質問を重ねる人などさまざま。気温の上昇を肌で実感する頃、白い

流れが筋となって管からあふれ出し、ぐんぐん勢いを増し、音を立てて落下していく。その二筋の白亜の流れは途中から混ざりあい一つとなって、見物客のいる橋の下方に透きとおった虹をかけ、その飛び散る沫が涼風を一気に送ってくれた。

放水終了後は地下路からエレベーターでダム天端へ。水とエネルギー館で竹村公太郎氏が映像を交えながらダムの役割などを解説。国土の70%を森林地域が占め、10%が洪水地域、その10%に人口の50%が住み、治産は75%に達しているとの話に愕然となる。稲作の地、日本の洪水を防ぎ国民を救うダムの姿を明らかにされた。ダムを高速道路にたとえて「料金所で一回貯めておいて安全な水をすいすい流す」と説明されました。また、水は量ばかりでなく質をよくする事で乳児の死亡率を減らしたことや「大正時代には水まわりの事が女性の仕事とされてきたが現代はそのことから解放され、女性の寿命が飛躍的に伸びている事実はダムの恩恵に浴している」と、ユーモアで包みながら話された。

宮ヶ瀬ダムは、芦ノ湖と同じ2億tの水を湛える県内最大の水ガメ。その水は丹沢の山から来ているが、大雨でも山が崩れないため、極めて水質がよいのが誇りとのこと。国と県がほぼ半々で出資し、計画から完成まで32年の歳月を費やしたという。今では神奈川全域15市9町に1日420万t、甲子園球場6個分の水を供給している。

ダムを作るために490haの土地が必要となり、281戸の家の人々が住み慣れた土地を離れ代替地に移り住んだ。その方々の新しいコミュニティーが一番の課題と伺い、「宮ヶ瀬湖の水を大切に使い環境を守り育て利用し、意義と歴史を後世に伝えよう」という宮ヶ瀬憲章が胸にずしりと響いた。

講師紹介

鷺巣 力先生のこと

「映像」コース 三田村 武彦

「photograph(光が描いた絵)の日本語訳が“写真”でよいのか」と鷺巣先生が言われ、目からウロコが落ちた思いです。私は、定年後写真を始め、「見たままを撮る」をモットーにしていますが、昨今特にデジタルが普及しだしてから作画的な写真が多くなり、疑問に感じていた矢先に、冒頭の先生の言を伺い納得した次第です。先生によると、「写真の本質は、お見合い写真にある」。つまり、写真は、必ずしも事実を写していないのです。鷺巣先生は、仕事上ご自身では、写真を撮られたことはなく、専ら他者が撮られた写真を取捨選択し、編集されていたそうです。したがって先生の写真論は論理的で楽しく、また写真界の人脈も広く、今回も素晴らしい先生方を講師に招かれました。招かれた講師の講座も毎回傍聴される誠実なお人柄で、その実直な成果が表れ、講座最終日の討論会でも、講師の方々が盛り上がり、教室も爆笑に包まれました。見事な講座のコーディネーターに、感謝いたします。

ある日の講義から

「メディア」コース 高井 康夫

「メディア」は、05前期からの講座改編で「ことばと映像」を引き継ぐ形で設けられたコースです。江藤文夫先生からコーディネーターを引き継がれた鷺巣先生は、講座を「メディ

プロフィール

鷺巣 力(わしず・つとむ)

1944年東京都生まれ。東京大学法学部卒業。69年平凡社に入社し、編集に携わる。「太陽」編集長、85年より取締役を務め、92年退社。東京大学新聞研究所、明治学院大学等講師、かわさき市民アカデミーのメディア・映像担当講師として活躍。



アから今日の日本を読む」と題し、全体のコーディネートとスポーツ報道について担当されました。そこで現在のスポーツジャーナリズムは、スポーツの面白さを半分も伝えていないとし、その要因として次の五つを挙げられました。①ナショナリズムの鼓舞②常識にとらわれすぎ③スポーツはドラマという落とし穴④ヒーロー主義⑤激情・感情表現。このスポーツ報道の現状は、大衆が求めた結果そのものであるということですが、主体性のない、当事者意識をもたない受身としての個人でなく、読者・視聴者の立場から発言し、クレームをつけることがジャーナリズムを救うことになるという指摘、その明快な語り口には共感を覚えました。

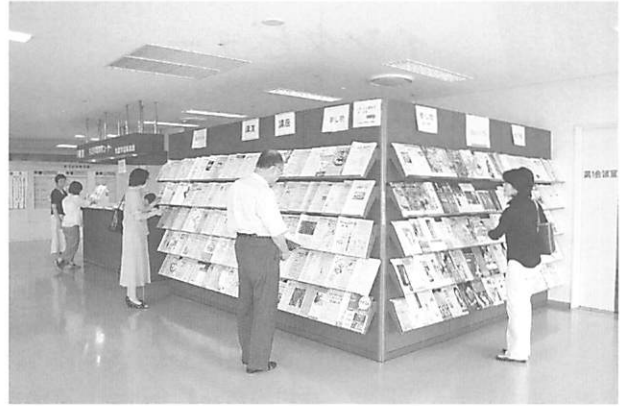
生涯学習情報コーナーをご存じですか

市民の皆様への生涯学習活動に伝えるために、教育文化会館1階と高津市民館11階にある「生涯学習情報コーナー」には、市内を中心に各所で開催される講座・催し物等のパンフレット・チラシや定期刊行物が常時600種程収集されています。公開展示されていますので、閲覧用を除き自由に持ち帰ることができます。

収集の対象としている市・県の行政機関や行政機関に関連する様々な団体・施設、NPO法人等から発行されるパンフレット等の情報は大変多く、整理に追われる状況が続いています。ちなみに、16年度は、教育文化会館と高津市民館の両情報コーナーを合わせて5000件、部数にして90000部の情報を市民の皆様へ提供しました。

パソコン研修やホームヘルパー養成など福祉に関する情報提供が比較的多い傾向にあります。

情報は、的確であることが求められていますので、開催期日・内容等が古くなっていないかなど、十分な注意をはらって確認をし、新しい情報を速やかに提供するように心掛けています。是非一度情報コーナーをご利用ください。



「皆さんの情報を見やすく整理している
生涯学習情報コーナー」(高津市民館11階)

また、次の曜日には、学習情報室の相談員が収集した情報や生涯学習情報システム・ふれあいネット等を活用しての学習相談にもお応えしていますので、あわせてご利用ください。

*教育文化会館 火～土曜(祝日を除く) 9:00～16:00
*高津市民館 火・水・金曜(祝日を除く) 13:30～16:30

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250/Fax(233)2700

パソコンセミナー受講生募集

パソコンの基礎から応用まで幅広く講座を開催しています。申込締切日を過ぎても空いている場合もありますので詳しくはお問い合わせください。

◆難易度… [やさしい] ☆<★<★★<★★★<★★★★<★★★★☆ [難しい]

講座名	難易度	講座No.	開催日	受講料	申込締切
パソコンステップアップ	★	9-A	9/7(水)・8(木)	13,000円	8/19(金)
WORD初級	★★	9-B	9/12(月)・13(火)	9,000円	8/26(金)
EXCEL初級	★★	9-C	9/15(木)・16(金)	9,000円	9/1(木)
デジカメ入門	★	9-D	9/21(水)	5,000円	9/2(金)
パワーポイントでプレゼンテーション	★★★☆	9-E	9/27(火)	5,000円	9/9(金)
パソコン入門	☆	9-F	9/28(水)・29(木)	13,000円	9/12(月)
デジカメ画像編集講座	★★	9-G	9/30(金)	5,000円	9/13(火)
EXCEL初級	★★	10-A	10/3(月)・4(火)	9,000円	9/16(金)
WORD中級	★★★	10-B	10/6(木)・13(木)	13,000円	9/20(火)
デジカメ画像編集講座	★★	10-C	10/7(金)	5,000円	9/20(火)
シニアのためのWORD入門	★	10-D	10/11(火)	5,000円	9/22(木)
シニアのためのEXCEL入門	★	10-E	10/14(金)	5,000円	9/26(月)
パソコンステップアップ	★	10-F	10/17(月)・18(火)	13,000円	9/28(水)
WORDで小冊子を作る	★★★	10-G	10/19(水)	5,000円	9/30(金)
WORD初級	★★	10-H	10/20(木)・21(金)	9,000円	9/30(金)
デジカメ入門	★	10-I	10/28(金)	5,000円	10/7(金)
簡単ホームページ・ブログ	★★	10-J	10/31(月)	6,500円	10/13(金)

★受講時間…9:30～16:30(昼休憩1時間あり)。ただしWORD初級とEXCEL初級の2日目は12時で終了

★対象…18歳以上 9-D、9-G、10-C、10-D、10-E、10-Iは概ね50歳以上。定員各15人

★会場…川崎市生涯学習プラザ 3階研修室

◆申し込み…はがき・Fax・電話で。希望講座No.、〒、住所、氏名(ふりがな)、☎、Fax、年齢、受講目的を明記
〒211-0064 中原区今井南町514-1 生涯学習プラザ内事業推進室「パソコンセミナー」係

問い合わせ 事業推進室 ☎044(733)5894/Fax(733)6697

財団主催の講座・相談・貸館などの情報

まなびの広場

特集

インタビュー

北條 秀衛・教育長

今号のインタビューでは、2005年4月に教育長に就任された北條秀衛さんに登場していただきました。社会状況が激変する今、10年先を見据えた教育改革への取り組みを計画的に推進する「かわさき教育プラン」の実現に向けて勇往邁進する北條さん。これまで文化行政とりわけ岡本太郎美術館の設立に貢献、また総合企画局でも「川崎市新総合計画」策定やまちづくりに力を注いで来られました。その人柄は「誠実で行動力抜群」との評判。

教育に対するニーズもこれまで以上に多様化し課題もさまざまですが「生きる力をつけること。失敗を恐れない、そこから何かをつかむ子どもに」と決意を話します。趣味のうどん打ちや野菜作りの経験から「教わったことを今度は教える。そして人と交流しさらに新たな世界を広げて楽しむ。そんなグッドサイクルを地域や学校で作っていくことが必要」と生涯学習社会の展望についても話してくださいました。



学び教える 新たな世界を拓く

——北條さんは教育長に就任されて約半年ですが、「教育長に」とお話があったとき、どんなことを思われましたか？

北條 まず、自分に務まるのかなと思いました。長く教育委員会で仕事をしていましたが、この数年は総合企画局でまちづくりの旗振り役をしていました。教育委員会で学んだいろいろな手法が、総合企画局で仕事をする上で非常に役に立ちました。今度は総合企画局で得た考え方や手法を、教育委員会にないところにプラスして、自分にできることで育ててくれた教育委員会に少しでも恩返ししたいと思いました。私の役割は、さまざまな活動をしている人や団体を相互に結びつけながら仕事を進めるコーディネーターのかなど。教育の仕事は量と質の両方が求められます。学校だけでも市内に180校あり日々いろいろなことが起きています。そのようなことに迅速な対応が求められます。時代の状況を読みながらスピードアップを図って仕事をしていきたいと思いました。

——さて、子ども時代のことから伺いたいと思いますが、お生まれはどちらですか。どんな環境で過ごされましたか。

北條 私は、母の実家の熊本県天草の牛深市で生まれました。その後、父の実家のある栃木県宇都宮市へ引っ越ししました。父が退役軍人でしたので仕事を求めて6歳の時に川崎に来ました。幸区の南河原小学校、南河原中学校を卒業しました。

そのころは、川崎駅西口大通りの道路そのものがまだ舗装されてなくて、ぼつんぼつんと個人商店があるくらいで、田

んぼも畑もあり、のどかな風景でしたね。

——小さいときはどんな子どもでしたか。

北條 私は、はにかみやでおとなしい子どもでしたよ。なぜかという栃木から引っ越してきてなまりがあり話すときみんなに笑われましたので、あまりしゃべらなかつたんです。兄弟は3人で姉と妹に挟まれていて、遊ぶのはいつも女の子でしたから余計におとなしかったですね。でも外でもよく遊びましたね。自然相手の遊びが中心で、近くに沼がありましたからエビガニ釣りをしたり、フナを追っかけたり。楽しみは5円もらって飴を買って紙芝居をみることに。そのころはソロバンを習っていて、2級か3級ぐらいまでやりましたよ。暗算は先生より速かったから、足し算引き算のテストはすぐに終わっちゃうんです。算数は得意でしたが中学に入って数学になったら暗算では対応できなくて苦手になりました。

学校は楽しかったですね。学校に行くと友達もいっぱいいました。ドッチボールとか陣取りとかして遊びました。学校での思い出は遊んだ記憶の方が多いですね。

——次の時代を担う子どもたちに期待することは何ですか。

北條 「生きる力」をつけてもらいたいですね。人間は一人では生きられない存在です。生活していく上で必要な食べ物や着るものなども誰かに作ってもらっていますよね。だから生きるということは、人との関係の中で他者によって生かさ

れているということにもなります。そのことに気づけば、お互いの人格を認めあうことにもなると思います。いろいろな仕組みの中で人間は生きているんだということに気づき、自分のためだけではなく、他人のために何らかの役に立って生きていく、人間同士が手を携えながら生きていくんだということを知って欲しいですね。

——今の子どもは、物質的に豊かで便利な暮らしの中で「誰かのお陰で生きていられるんだ」という感覚が薄いのでは？

北條 例えば食べ物ひとつとっても、きれいに整えられた物しか知らない子どもは、お金さえあればコンビニで何でも簡単に手に入るとしています。野菜がどんな風に作られているのか、お店に並ぶまでどうなっているのかが見えないので、プロセスがわかりません。教科書で習ったとしても実感がわきません。子どもには肌で感じられる体験の機会をできる限り作りたいですね。体験を通して失敗や成功体験を積み重ねない限り、どんなに頭の中でシミュレーションしてもいろいろな場面に対応する力は養われないと思います。さまざまな体験をすることで達成感を味わう。一度や二度の失敗でもしぼまずに失敗からも何かを学び取っていく子どもになって欲しいです。生きる力とはイコール学習する意欲ではないかと思っています。



南河原小学校の児童が作ったお茶を受け取る教育長

——教育長は「学ぶ」ということについてどうお考えですか。

北條 学ぶことの最大の魅力は「未知との遭遇」の喜びかな。知らなかったことに会うというのは、たくさんの発見があって非常に楽しいですよ。そして学び続けているうちに、しだいにそれが本物になっていくと思うのです。私は野菜作りを15年ぐらいしていて畑仲間もいます。いろいろなことをよく知っている人の方が、作物がよくできるんです。そういう人の話は実体験に基づいているので、参考になりますね。本を読んでも知識やノウハウは得られるけれども、人との交流からもたくさんのことを学ぶことができる。仲間と一緒にいることによって多方面に広がりができ、パワーになると思いますね。私は、人が楽しそうにしていることは何でもしてみたくてなんです。これまでも野球、書道、英会話などいろいろなことをしてみました。長く続けているのは野菜作りとうどん打ちぐらいですが。

——「かわさき教育プラン」の重点施策の中に「市民の学びを支援する」「市民の力を活かす」とありましたが、生涯学習はどのような方向に進むのが望ましいとお考えですか。

北條 それぞれの興味のあることを学んで、個人の知の世界が充実するのは素晴らしいことです。「それで十分だ」という方もいるでしょう。でもこれからは「教わった人は教える。



夢パーク内の「フリースペース」でうどん打ちを実習(写真提供「フリースペース」)

教えた人は教わる」というサイクルを作っていくのいいと思っています。例えばうどんの作り方を習う、うどん作りをマスターしたらそれで終わりではなく、今度は誰かに教えることで技術が確かなものとなる。そしてそれを継承し普及していく。「教わり教える」というサイクルを繰り返すことで、新たな連携が生まれてくると思います。個の学びに終始するのではなくて、人と交流することで世界を広げることです。

——そうすると学んだものを活かす場が必要になってきますが、実際にはそういう場が少ないのでは？

北條 本当は活かせる場があるのに、ミスマッチでうまく出会っていない感じがします。学んだことを還元できる場は学校ではないかと思っています。教職員だけでなく、地域の大人も学習に関わる、個人の特性を活かして持っているものを必要な側へマッチングさせる新しい仕組みを複層的に作る必要があるでしょう。そうすれば地域コミュニティの復活にもなるし、学校が変わると思います。

——学校が地域コミュニティの核になるということですか？

北條 地域の目が学校に注がれることが大切だと思います。学習のサポートをするだけでなく、建物の管理をするとか、花壇の手入れをするとかで子どもたちと顔を合わせ会話する。そんな日常の何気ないやりとりから子どもと大人の触れ合いが生まれ、そこからネットワークが出来てくると思います。

これからはいわゆる団塊の世代の人たちが退職し、シニアの仲間入りをする時代です。こういった方々が自分たちの今までの経験を活かしNPOを設立して活動を始めたり、あるいはこれまでとは異なった学習をして自分を高めたりしていこうとしています。行政も積極的にシニアの方たちの活動を支援していかなければいけない。学校も地域に戻ってきた方々の力を借り多様な価値観に触れて学びあい、子どもたちと接していく事が大切になってくるでしょう。

北條 秀衛さん (ほうじょう・ひでえ)

1946年熊本県生まれ。その後栃木県宇都宮市に移り、小学校から川崎に。南河原小学校、南河原中学校を卒業。県立川崎高校・大学卒業後、69年4月川崎市役所に入所。福田公民館を皮切りに、青少年教育、文化行政等に携わる。95年「岡本太郎美術館」準備室長に就任し同館開設に多大な貢献をする。2003年総合企画局局長を経て05年4月から教育長。好きな言葉は「艱難汝を玉にす」(多くの苦しみや困難を経て立派な人間となるとの意)。趣味はうどん打ち、農作業、旅行など。麻生区在住。

芸術文化ロード

このコーナーでは、日本民家園、市民ミュージアム、青少年科学館、岡本太郎美術館の施設を紹介します。それぞれの館の特色や見どころを順次掲載します。今回は自然系博物館である青少年科学館からお届けします。

市内で唯一の自然系博物館

— 川崎市青少年科学館 —

川崎市青少年科学館は1971年に市内唯一のプラネタリウム館として開館しました。82年には天体観測室・展示室・収蔵庫・実験室等を備えた本館が完成し「市民とあゆむ自然系博物館」として新たな活動を開始しました。自然に恵まれた多摩区生田緑地にあり、宇宙を含む身近な自然について学ぶことから、生涯学習を生涯活動へ結びつけ、自己実現する市民を育成し地域発展の一翼を担うことを使命として運営しています。科学館の活動は、天文・プラネタリウム、自然、科学、学校支援の4分野に広がっていますが、今回は天文・プラネタリウム分野を紹介します。

世界で唯一のプラネタリウム館

大きなドームのプラネタリウム館では毎日(月曜休館)星空の投影があり、多くの皆さんが星空散歩を楽しんでいます。館内には1979年に更新された「GM-II 投影機」と2004年から常設された「メガスターII 投影機」が設置されています。「メガスターII 投影機」は市内多摩区在住の大平貴之氏が開発製作した投影機で、410万個もの恒星を映し出すことができます。そしてこの2台の投影機を駆使して投影解説しているプラネタリウム館は世界に一つしかありません。

星空のご案内は個性あふれる職員が肉声で行っておりますのでどうぞお楽しみください。そしてプラネタリウムを見たあとで、ご自宅でも星空を見上げてください。本物の星空には必ず何かの発見があります。街あかりの多い川崎でも、一瞬の輝きを残す流星や太陽系の旅人である彗星を見つけることができます。



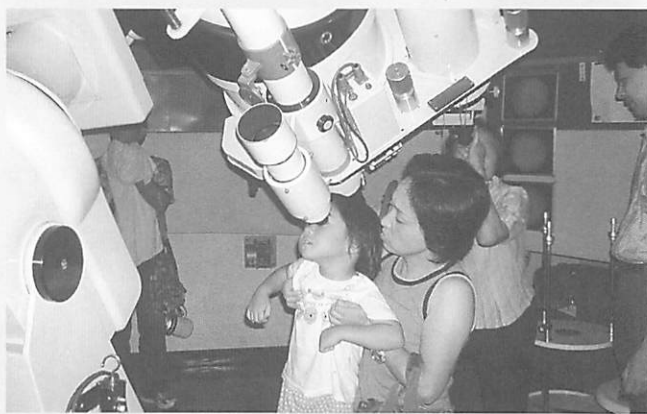
メガスターII 投影機の星空



青少年科学館の全景

ほんとうの星を見る楽しみ

星空は季節ごとに変化します。初秋の宵、一番星は西に輝く金星です。そして空高く、はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガがつくる夏の大三角形がとても美しく輝いています。そんな、ほんとうの星空を観察する「星を見るタベ」、「星空教室」や市内小中学校で開催する「学校星空ウォッチング」が定期的に行われています。ぜひ月や惑星の素晴らしい姿をご覧ください。もちろん科学館の天体観測室に設置された市内で最も大きな口径40cmの反射望遠鏡や市民の方から寄贈された天体望遠鏡がお手頃いたします。



「星を見るタベ」で月の観察

市民が企画・制作・投影するプラネタリウム

科学館では生涯学習を続ける市民活動を支援しています。自主的な市民グループ「プラネタリウム宇宙教室」では、天体観察や学習会で学んだ成果を活かしてプラネタリウム番組を企画・制作し、投影しています。すでに第1作「三蔵法師の見た星空」、第2作「ホルストの惑星とその時代」、第3作「万葉集で楽しむ星空」を自主制作し投影しました。これからもぜひ多くの方々に参画していただきたいと思っております。

● プラネタリウム投影開始時間 ●

- ◆ 火～金曜日⇒学校向け学習投影は10時・11時15分・13時半▽一般投影は15時。
- ◆ 土・日・祝日・春・夏・冬休み⇒子ども向け投影は10時半▽一般投影は12時・13時半・15時。
- ◆ 観覧料⇒大人(65歳以上は除く)200円▽大学生・高校生100円▽団体(20名以上)は大人160円▽大学生・高校生80円▽中学生以下・65歳以上は無料。 ◆ 交通⇒小田急線向ヶ丘遊園駅南口から徒歩15分 <http://www.nature-kawasaki.jp/>

※休館日:毎週月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、年末年始。問い合わせ:☎044(922)4731/Fax 044(934)8659

まち・ひと・多面体

子どもが冒険できる遊び場を

「夢見ヶ崎プレーパークをつくる会」

毎月第3土曜日になると「小倉わんぱく広場」では、水遊びをする子、ペーゴマをする子、廃材を使って工作をする子、シロツメクサでかんむりを作る子など、遊びに興ずる姿が見られます。ここは、新川崎駅から徒歩約10分、川崎市緑政課が管理している新鶴見操車場跡地の約4500㎡の広場です。昨年「小倉わんぱく広場」と名づけられ、市民ボランティアが緑政課と協働し、加瀬山に育っている苗木の植栽や、水飲み場、ベンチの設置などの整備をしています。

この広場の半分を使って活動しているのが「夢見ヶ崎プレーパークをつくる会」(阿部美香代表、会員8人)です。「子どもの好奇心や欲求を大切に、規制せずにのびのび遊べる場を作りたい」と3年前に発足しました。「プレーパーク」とは「冒険遊び場」とも言われるヨーロッパ発祥の遊び場で、日本では世田谷区の羽根木公園から広がりました。

取材に伺った日は、親子連れなど約50人が集まっていました。広場には、会のモットー「自分の責任で自由に遊ぶ」「好きな遊びを見つけよう」と書かれた二本の旗が立てられていました。子どもたちは青空の下で縦横無尽に駆け回り、それぞれの遊びに夢中です。しばらくして「語りの会日吉」の会員が絵本を読み始めると草の上に座り、物語の世界へす



っと溶け込んでいました。

代表の阿部さんは「主催者とお客様という関係ではなく、大人も子どもも自然とふれあいながら自分の遊びを見つけていって欲しい」と話していました。緑を育てているボランティアの神田さんも「木が折られたらまた植えれば良いのですから」と子どもたちが遊ぶ姿を大らかに見守っていました。

同会では9月13日から幸市民館日吉分館で「子どもは遊びで育つ」というテーマで4回の講座を予定しています。

◆活動日：毎月第3土曜日10時30分から14時

◆連絡先：☎044(599)5654の阿部さん

くらし百景

歌壇

星と短歌の世界

箕輪 敏行

星の歌

おのおの座標をもちつつ天球に位置する星は今日もめぐり来
故なきに昂ぶる心鎖めんと仰げばすはる星群白し
母の見しハレー彗星くるといふ母みし空の星々したし
イオンの尾ダストの尾と振分けて彗星弥生の空移りゆく
母の背にみたりし宵の地球照はるかなる日の夢甦る
一瞬のビッグバンにて造られし宇宙はその時神のゐたるか
明星として輝ける金星が黒点となり一三〇年振り太陽を過ぎる

黒い太陽を追って

日蝕の暗き影々天山の嶺に落つれば雪光りくる (一九六八 ソビエト)
われも又兵なりきここに生きて日本人墓地に額かんとす

(一九六八 ハバロスク日本人墓地)

蝕進みコロナ忽ち輝けば仙人掌は天に向きて棘立つ (一九七〇 メキシコ)

日蝕の夜暗き甲板に蠢きて神を畏れぬ観測者あはれ (一九七三 アフリカ)

観測テスト幾度か終へし夜の窓に南十字星輝きを増す (一九八〇 デカン高原)

六十年平易に過ぎしわが生かバイカルは深く悲しみ湛ふ (一九八一 シベリヤ)

金環のめぐりを暈がかこみたりあなたふとしや日輪菩薩 (一九八七 沖縄)

一帯に観測網は張られたり感度良好WVH (一九九一 ハワイ)

*一九一八年川崎生まれ。一九七九年川崎市公立学校長退職。現在日本天文学会会員、川崎天文同好会代表。斎藤茂吉の流れをくむ短歌会『歩道』同人。一九七九年「川崎市文化賞」受賞。二〇〇四年「日本気象学会奨励賞」受賞。今年三月、川崎市青少年科学館で「箕輪敏行氏星と短歌の会」を講演。歌集『天球』『ハレー彗星』『彗星痕』『地球照』『黒い太陽を追って』など出版。

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●第12回あゆまつり

9月3日(土) 10時半～15時。多摩区中野島の授産施設あゆ工房。模擬店、バザー、作品展示など。☎(911)1315。

●市民活動フォーラム「みんなで育てよう！川崎の市民活動」

9月17日(土) 13時半。かわさき市民活動センター(中小企業・婦人会館2階)。市民活動推進委員会のこれまでの取り組み報告と今後の課題について意見交換。無料。☎(200)2296市民局地域生活課。

●川崎市定期能9月公演

9月10日(土)、川崎能楽堂。第1部は13時半開演。能「班女」。出演は鶴澤久他。第2部は15時半開演。能「井筒」。出演は浅井文義他。各3500円。チケットは同所で発売中。☎(222)8821の川崎市文化財団。

●第4回MUZAランチタイムコンサート

9月14日(木) 12時10分開演、ミュゼ川崎シンフォニーホール。洗足学園音楽大学卒業生の弦楽合奏団「アンサンブル・デュナミス」の演奏。500円。☎(520)0200の同ホール。

●パランセク10周年発表会～想いを青い響きにのせて

10月2日(日) 17時開演、労働会館。コリア文化サークル「パランセク」のチャンゴ・カヤグムの演奏、踊り、ハンゲルの発表。無料。☎(276)4800ふれあい館「パランセク」係。

●中村正義の美術館①「顔のある常設展」②「おそれ」展

①は9月2日(金)～19日(祝)。②は9月23日(祝)～11月27日(日)。1974年の代表作「何処へいく」「おそれA」「おそれB」他約40点を展示。開館日は金～日と祝日の11時～17時。一般500円、大高生300円。小中学生200円。☎(953)4936。

●岡本太郎・誇らかなメッセージ「明日の神話」完成への道展

9月25日(日)まで。岡本太郎美術館。一般600円、高・大学生400円。中学生以下と65歳以上は無料。休館日は5日(月)12日(月)と20日(火)。☎(900)9898の同館。

●ミニ画廊スナック琴①写真②篆刻

①は9月17日(土)まで、久末フォーククラブの風景作品。②は9月17日(土)～10月1日(土)まで、吉永智子の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎(544)0507。

●川崎授産学園①福祉講演会②天体観望会③人形劇

①は9月17日(土) 13時半。「明日という可能性」と題し女優の萩生田千津子さんが講演。民話語りあり。先着100人。②は9月17日(土) 19時。中秋の名月と秋の星座を観望。③は9月27日(火) 10時と13時半に「スサコーン物語」を上演。①②③とも無料。☎(954)5011。

●北部身体障害者福祉会館講習会①拡大写本入門②手話入門

①は9月30日～11月4日毎金曜13時半、全6回。受講料無料。教材費500円。②は9月27日～11月15日火曜13時半、全7回。受講料無料。☎9月10日(土)までに、往復はがきに住所、氏名、

年齢、☎、受講する講座名を記し〒213-0001 高津区溝口1-18-16の同館。☎(811)6631。

●大妻女子大学公開講座～地域の力 近所の力

9月24日～10月22日毎土曜10時、全5回。場所は大妻女子大学多摩キャンパス。受講料3000円。☎9月16日(金)までに往復はがきに講座名、住所、氏名、性別、年齢、電話、職業を記し〒206-8540多摩市唐木田2-7-1同大学公開講座係。☎042(372)9988。

●市立看護短期大学創立10周年記念公開講座「心の健康」

10月1日(土) 13時から特別講演会「家庭に活かすメンタルヘルス」。運動できる服装で参加。15時15分から公開講座。「ストレスとうまくつきあおう」「心のストレスと慢性疾患」「スキンケアとアロマセラピー」のいずれかを選択。受講料無料。☎9月5日(月)9時から☎(587)3502の同大学。

●国際語エスペラント入門講座

9月28日～11月16日毎水曜19時半、全8回。場所は川崎市国際交流センター。受講料3000円、中高生1500円。☎18時以降に☎(533)1906の北川さん。

●プラザ橋市民自主学級「シニアを美しく生きるための知と技を磨く～パート2」

10月7日～18年2月3日の主に金曜13時半、全9回。対象は60歳以上20人。資料代など実費。☎9月23日(祝)までに往復はがきに氏名、住所、☎を記し、「シニア教室」係まで。☎(788)1531。

●簿記1級能力検定準備講座

10月24日～18年2月6日の主に月・木曜18時15分、全27回。場所は労働会館。先着35人。受講料26400円、教材費6500円位。☎10月2日(日)9時から☎(222)4416の同館。

●青少年創作センター「秋の創作教室」①陶芸②絵手紙③油絵

①10月20日～11月17日の木曜9時半、全4回。3500円。②10月24日～11月14日の月曜9時半、全4回。3200円。③11月1日～22日の火曜9時半、全4回。4500円。対象は成人。☎9月22日(木)までに往復はがきに教室名、氏名、性別、住所、☎を記し〒214-0034多摩区三田2-3303-1の同センター。☎(911)1510。

●第9回「岡本太郎記念現代芸術大賞TARO賞」作品募集

美術のジャンルにこだわらず、自由な発想で新たな表現のフィールドを切り拓くプロ・アマの作家を支援し、優れた業績を顕彰する。出品は無料。応募締め切りは9月15日(木)。詳細は同館「TARO賞」係。☎(900)9898。

●パステルサロン(パステル画)会員募集

毎月第1・3火曜13時半～16時半。場所は高津市民館。入会金1000円。月会費2500円。講師は笠松陸旦二科会会員。初心者歓迎。☎(965)0955の清水さん。

今月の表紙

1872(明治5)年の作品。木版多色刷。36.5×24.3cm。川崎市市民ミュージアム所蔵。

晩斎と芳虎の合作によるシリーズ。画面下段には、川崎名物である梨を食べる弥次喜多の姿が描かれている。また、西洋の服を着る男女の姿があったり、電信柱を描くなど、近世の東海道を画題としたシリーズに明治初期の風俗を巧みに織りまぜている。版元は沢村屋清吉。